

すべての人に 優しいまちづくり

年齢や性別、障がいの有無にかかわらず、誰もがお互いの個性を尊重し合う「共生社会」。この特集では、2月に札幌などで開催される、知的障がいのある方が参加するスポーツの競技会・スペシャルオリンピックス2020北海道の運営に携わる有森裕子氏と秋元市長の対談を通して、すべての人に優しいまちづくりについて考えていきます。

【詳細対談に関しては広報課(21)20336、スペシャルオリンピックスに関しては企画事業課(21)3044

スポーツの魅力・スポーツの持つ力

——まずは、有森さんが思うスポーツの魅力についてお聞きしてよろしいですか。

有森 スポーツは人が生きる力を育んでいく側面があると思っています。ルールを守ることはもちろん、体づくりのための食事や、チームプレーに必要なコミュニケーション、勝敗にかかわらずお互いを尊重する精神。このような生きていく上で大切なことを、スポーツを通じて分かりやすく、そして楽しく学べますよね。

——マラソンランナーとして活躍された経験から実感されたことはありますか。

有森 マラソンはプロも一般の方も一緒に同じスタート、ラインに並び、同じゴールを目指すので、参加者同士で励まし合うなど、思いを共有しやすいですね。

市長 確かに、他のスポーツにはない特徴の一つですね。有森 慈善活動のチャリティーマラソンのように、何かのメッセージを込めて競技を行うこともできます。そこに関わる方には障がいのある

方もいて、性別や年齢も違う方たちが集まり、一つの目標に向かっていける。そうした特性があるマラソンに携われたことが、スポーツは何かができる、社会とつながっているという意識を高めてくれたと思います。

——市長はいかがですか。

市長 スポーツは体力やレベルに合わせて、誰でも楽しめますよね。私は子どもの頃、体が弱かったのですが、有森 え、それは意外です。市長 小学生になって兄と野球をするようになってきたおかげで丈夫になりました。そうした健康増進の側面もありますよね。

——スポーツにはさまざまなことに役立つ力がありますね。

市長 そうですね。言葉や文化が違ってても、同じルールで競技ができる点もスポーツの良さの一つ。ラグビーの応援も盛り上がりましたが「する・見る・支えるスポーツ」というように、いろいろな立場で参加できるのも魅力ですね。



あり もり ゆう こ
有森 裕子

岡山県出身。マラソンランナーとして、バルセロナオリンピックで銀メダル、アトランタオリンピックで銅メダルを獲得。現在、スペシャルオリンピックス日本理事長のほか、日本陸上競技連盟理事などを務める。



札幌市長
あきもと かつ ひろ
秋元 克広

進行
まこと のりこ
真砂 徳子
(フリーアナウンサー)



「札幌は2030年冬季オリンピック・パラリンピックの開催を目指していますが、有森さんはどんな感想をお持ちですか。有森 2020年の東京開催が決まったときの都民の声から感じたのですが、1972年の札幌オリンピック開催によって、街や暮らしが変化してきたことを知っている世代の方々は、特にオリンピックの意義や意味を誇らしく感じているのではないのでしょうか。パラリンピックは札幌初開催になるということで、さらに進化した大会になりそうですね。市長 前は初めて世界中に札幌を知ってもらう機会に



▲招致に関するワークショップで子どもたちと意見を交わす秋元市長

りました。2030年の大会が実現したら、障がいのある方や海外の方など、さまざまな方が行き来できる街に発展していきます。そのためには、施設などのハード面のバリアフリー化はもちろん、心のバリアをなくしていくことも重要だと思いますね。

有森 スペシャルオリンピック・パラリンピックの開催も、札幌がそうした街になるために貢献できればうれしいです。市長 そうですね。そのためにも2月の大会には多くの市民の皆さんに足を運んでいただき、みんなで大会を盛り上げたいですね。有森 はい。ぜひ選手たちへの応援をよろしくお願いします。特に、自分自身に元気がないと感じている方にこそ応援に来てほしいですね。自分の声で人を元気にできることも元氣できると、応援する側も元氣をもらえるんですよ。応援する側とされる側が一体になることで新たなエネルギーが生まれるのが、スポーツの一番すごいところかもしれませんね。

スポーツが札幌の街にもたらすもの



▲開催を記念して行われたトーチランに参加した有森氏

「有森さんはスポーツを通じて知的障がいのある方を応援していらっしゃいますよね。有森 スペシャルオリンピック・パラリンピックという組織で、知的障がいのある方にスポーツトレーニングの場を提供しています。2月には、日頃の成果を発揮する冬季全国大会を、北海道で初開催します(5月下旬参照)。

「大会で注目してほしい点はどこですか。有森 一生懸命頑張る選手の姿を見てほしいですね。選手は周りの評価とは関係なく、出した結果に対して素直に喜び悔しがります。その姿は応援している方たちにも大きな感動を与えてくれるんです。誰もが主役であるという感覚や、全員が理解し合い、共に生きることがどれだけ素晴らしいことなのかを伝えられる大会にしたいですね。市長 この大会に参加される選手の方たちもそうですが、人にはそれぞれ得意なことや

「こうした大会が、障がいに対する意識を変えるきっかけになるかもしれないですね。市長 そうですね。以前札幌で開催されたパラノルデイツクの国際大会を小学生の皆さんと観戦する機会があったのですが、障がいのある選手の滑るスピードや競技の迫力に、子どもたちが興奮していたことを思い出します。

すべての人に優しいまちづくりとスポーツ



苦手なことがあると思うんです。まずはその違いを認め合っていくことが大切ですよ。苦手な部分を他の人に支えてもらうことで、より自分の力を発揮できる場合もあります。そうやって共生社会ができていき、誰もが安心して暮らせる街になっていくことが、幸せなことではないでしょうか。

有森 子どもたちは、片足で乗るスキーも競技用の車椅子も素直に「カッコいい」と感じるみたいですね。試しに乗ってみるとすごく喜びますが「ずっと座っていてこらん」と言われると、車椅子を利用しなければならぬ人の気持ちに気付いて理解するんです。自分は立って歩けるけれど、そうではない方がいることを知っていく。そして、障がいがあることをかわいそうと考えるのではなく、単に違いと捉える。そんな子どもたちの姿を見ると、障がいとは何かを知る機会がないことから生まれる、心の中にあるバリアが一番の障がいなんだと教えられる気がしますね。



スペシャルオリンピックス2020北海道を開催

知的障がいのある方が日頃のスポーツトレーニングの成果を発揮する競技会です。2021年にスウェーデンで開催される世界大会の日本選手団の選考を兼ねています。

日時①開会式=2/21(金)15時～、②アルペンスキー・スノーボード=22(土)9時45分～、23(祝)8時45分～、③ショートトラックスピードスケート=2/22(日)9時50分～、23(祝)12時～、④フィギュアスケート=2/22(日)13時30分～、23(祝)8時～、⑤閉会式=23(祝)15時30分～
※スケジュールは変更になる場合があります

会場①⑤は北ガスアリーナ札幌46(中央区北4東6)、②は藤野野外スポーツ交流施設フズ(南区藤野473)、③④は真駒内セキスイハイムアイスアリーナ(南区真駒内公園1)

※江別市ではクロスカントリースキーとスノーシューイング、岩見沢市ではフロアホッケーを実施費用・申込無料。当日直接会場へ ※①⑤は事前申し込みが必要。詳しくはお問い合わせを

詳細同大会事務局☎231-8055 スペシャルオリンピックス2020 検索



寄付金を募集しています
市ではふるさと納税を通じて本大会を支援しています。皆さんからのご支援をお願いします。寄付の方法など、詳しくはお問い合わせを。
詳細企画事業課☎211-3044

札幌市 寄付金を募集している事業 検索